

ウィトゲンシュタインのメタ哲学248p (2013) のレビュー(Wittgenstein's Metaphilosophy) by Paul Horwich [248p \(2013\)](#) (改訂改訂 2019)

Michael Starks

抽象

Horwichはウィトゲンシュタイン(W)の細かい分析を行い、Wの第一人者ですが、私の見解では、このレビューや他の多くの人が長々と説明しているように、それらはすべて完全な感謝に満ち不足しています。W(そして好ましくはサールも)を理解していないならば、私は哲学と高次思考、したがってすべての複雑な行動(心理学、社会学、人類学、歴史、文学、社会)の表面的な理解以上のものを持つことができる方法を見ません。一言で言えば、Wは、あなたが興味のある文脈で文がどのように使用されているかを示したとき、これ以上言うことは何もあることを実証しました。私はいくつかの注目すべき引用から始め、その後、私はウィトゲンシュタイン、哲学と人間の行動を理解するために必要な最小限の考慮事項であると思うものを与えます。

まず、単語の前に「meta」を置くことは疑わしいはずですが。Wは、例えば、メタ数学は他の数学と同様に、言った。哲学の外に出ることができるという考え(すなわち、高次思考の記述心理学)は、それ自体が深い混乱です。ここでのもう一つのいらだちは、「彼女」と「彼女」と「彼女」や「彼女/彼女」などの絶え間ない逆言語的性差別です。同様に、英語の「レパトリー」がうまくいくフランス語の「レパトリー」の使用もうまくいくでしょう。大きな欠陥は、私が上記で概説したHOTとサールのフレームワークの非常に強力な直感的な2つのシステムビューとして私が見ているものを採用する完全な失敗(非常に一般的ですが)です。これは、特に意味p111 et seq.(特に脚注2-7)に関する章では、自動化された真のS1、命題の処分S2、COSなどの枠組みなしで非常に泥だらけの水の中で泳ぎます。ジョンストンやバッド(私のレビューを参照)などを読むことで、内側と外側のより良いビューを得ることもできます。しかし、ホーウィッチは多くの切迫したコメントをします。私は特にp65に対するWの反理論的スタンスの輸入の彼の要約が好きでした。彼は最近、ダニエレ・モヤル・シャーロック、コリバなどによる多くの努力の主題である「確実性について」にもっと重点を置く必要があり、私の最近の記事で要約されています。

ホーウィッチは一流であり、彼の仕事は努力の価値があります。彼(そして誰もが)サールといくつかの現代心理学だけでなく、ハット、リード、ハッチンソン、スターン、モヤル・シャーロック、ストロール、ハッカー、ベイカーなどを研究し、幅広い現代的な行動観を達成することを望んでいます。彼らの論文のほとんどはacademia.eduとphilpapers.orgにあります。PMSハッカーにとっては<http://info.sjc.ox.ac.uk/scr/hacker/DownloadPapers.html>を参照してください。

彼はウィトゲンシュタインの理解が私が今まで見た私たちを残す場所の最も美しい要約の一つを与えます。

「フレーズの論理への算術の削減のように、言語的/概念的な活動(PI 126)を説明する試みがあってはならない。それを認識論的基盤(PI 124)に与える試みはありません。意味論理のように理想化された形式(PI 130)を特徴付けようとする試みはありません。マッキーの誤り理論やダメットの直感のように、それを改革する試み(PI 124、132)はありません。クインの存在のアカウントのようにそれを合理化する試みはありません(PI 133)。嘘つきのパラドックスに対するタルスキーの反応のように、それをより一貫させる試み(PI 132)を作る試みはありません。奇妙な仮説的な「テレポーテーション」シナリオのための個人的なアイデンティティの質問の解決のように、それをより完全に(PI 133)にしようとする試みはありません。

最後に、私がここで奨励した視点で、Wは現代哲学と心理学の中心にあり、あいまいで困難でも無関係でもありませんが、シンチレーション、深遠でクリスタルクリアであり、彼を見逃すのは可能な限り最大の知的冒険の1つを逃すということです。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、運命の惑星における「話す猿--哲学、心理学、科学、宗教、政治—記事とレビュー2006-2019 第3回(2019)」と21世紀4日(2019年)の自殺ユートピア妄想st Century 4th ed (2019)などを見ることができます。

Horwichはウィトゲンシュタイン(W)の細かい分析を行い、Wの第一人者ですが、私の見解では、このレビューや他の多くの人が長々と説明しているように、それらはすべて完全な感謝に満ち不足しています。W(そして好ましくはサールも)を理解していないならば、私は哲学と高次思考、したがってすべての複雑な行動(心理学、社会学、人類学、歴史、文学、社会)の表面的な理解以上のものを持つことができる方法を見ていない。一言で言えば、Wは、あなたに興味のある文脈で文がどのように使用されているかを示したとき、これ以上言うことは何もあることを実証しました。

私はいくつかの注目すべき引用から始め、その後、私はウィトゲンシュタイン、哲学と人間の行動を理解するために必要な最小限の考慮事項であると思うものを与えます。

心理学の混乱と不毛さは、それを「若い科学」と呼ぶことによって説明されるべきではありません。その状態は、例えば、その始まりの物理学の状態と比較することはできません。(むしろ数学の特定の枝のそれと。理論を設定します。心理学では実験的な方法と概念的な混乱があります。(他の場合と同様に、概念的混乱と証明の方法)。実験方法の存在は、私たちが私たちが悩ませる問題を解決する手段を持っていると思います。しかし、問題と方法は互いに渡し合う。ウィトゲンシュタイン (PI p.232)

哲学者は常に科学の方法を目の前で見えており、科学のように質問をして答え、たまらなく誘惑されています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な闇に導く」(BBB p18)。

「しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ:それは私が真と偽を区別する継承された背景です。ウィトゲンシュタイン OC 94

「哲学の目的は、言語が止まるところに壁を建てることです。ウィトゲンシュタイン哲学的機会 p187

「言語の限界は、単に文を繰り返すことなく、文に対応する(翻訳である)事実を記述することは不可能であることによって示されています。ウィトゲンシュタイン CV p10

「正しくはあるが、その対象と類似していない絵の可能性を念頭に置けば、文と現実の間の影の補間はすべてのポイントを失います。今のところ、文自体はそのような影として役立つことができます。文は、それが表すものと少しも類似していない、ちょうどそのような絵です。BBB p37

「従って、我々は、彼らが明らかに言葉の多くの異なる使い方を認識していないいくつかの哲学的数学者について言うかもしれません。そして、彼らはここで「種類」という言葉が文脈「リンゴの種類」と同じことを意味していたかのように、彼らが数字の種類、証明の種類の話をするとき、彼らは「種類」という言葉の使用の違いについて明確ではありません。あるいは、あるケースでは五角形の建設の発見と南極の発見について話すとき、彼らは「発見」という言葉の異なる意味を認識していないと言えるかもしれません。BBB p29

これらの引用はランダムに選択されませんが、(私のレビューの他の人と一緒に)私たちの2つの最大の記述心理学者からの行動(人間性)の概要です。これらのことを考えてみると、哲学は、完全に見落とされている明白な事実の一つである高次思考(HOT)の記述心理学であることを心に留めておかなければならない。すなわち、私はどこにも明確に述べたことがない。

ウィトゲンシュタインの第一人者は、彼の作品を要約した方法です:「ウィトゲンシュタインは、何世紀にもわたって私たちの主題をかわしてきた深い問題の多くを、時には2000年以上にわたり解決し、言語表現の性質に関する問題、思考と言語の関係、孤独主義と理想主義、他の心の自己知識と知識、そして必要な真実と数学的提案の性質について。彼はヨーロッパの論理と言語の哲学の土壌を耕した。彼は私たちに心理学の哲学に関する洞察力の小説と非常に実り多い配列を与えました。彼は数学と数学的真理の性質に関する何世紀にもわたる反省を覆そうとした。彼は基礎主義的な認識論を損なった。そして、哲学のビジョンを人間の知識ではなく人間の理解への貢献として、私たちの思考の形と、私たちが落ちやすい概念的混乱を理解するのです。—ピーター・ハッカー—ゴードン・ベイカーのウィトゲンシュタインの後期解釈

私は、Wが思考の2つのシステム(高速自動言語学的前言語S1と遅い反射言語的性質S2)を明確かつ広範に記述した最初の(40年)であると付け加えます。彼は、判断の公理的根拠であり、疑われたり判断したりすることができない広大な継承された背景でのみ行動が可能である方法を説明したので、(選択)、意識、自己、時間、空間は生まれつきの真

の唯一の公理です。彼は、現在、心の理論、フレーミング、認知錯覚として知られているものを何度も議論しました。彼は生まれつきの背景の必要性を頻繁に説明し、それがどのように行動を生み出すかを実証しました。彼は、後にワソテストになったものの背後にある心理学を説明しました - 数十年後にEP研究で使用される基本的な尺度。彼は、言語の不確定な性質と社会的相互作用のゲームのような性質を指摘しました。彼は何千ページと何百もの例で、私たちの内なる精神的経験が言語で記述できない方法を調べましたが、これは公共言語(私立言語の不可能)を持つ公共の行動に対してのみ可能です。したがって、彼は最初の進化心理学者と見なすことができます。

ウィトゲンシュタインについて考えるとき、私はしばしばケンブリッジ哲学教授C.D.ブロード(彼を理解も好きにもしなかった)に起因するコメントを思い出します。「ウィトゲンシュタインに哲学の椅子を提供しないのは、アインシュタインに物理学の椅子を提供しないようなものです!私は彼を直感的な心理学のアインシュタインと考えています。10年後に生まれたが、彼は同様にほぼ同時に、世界の同じ部分で現実の性質についてのアイデアを孵化させ、アインシュタインのようにほぼWW1で死んだ。今、アインシュタインは、混乱し、しばしば間違っていたが、世界的に有名になった彼のアイデアの1つの初期のバージョンを公開した困難な人格を持つ自殺同性愛者の隠れ家だったとします。彼の考えを完全に変えたが、次の30年間、彼の新しい作品の知識は、ほとんどが文字化けした形で、時折の講義や学生のメモからゆっくりと拡散した。彼は1951年にドイツ語で主に手書きの落書きの20,000ページ以上を残して死亡し、しばしば、前後の文章との明確な関係を持たない文章や短い段落で構成されています。彼はSuper、ダイアログで3人の異なる人物とスーパーソクラテス様式で書いた(実際に彼の著作は、トライアルと呼ばれるべきです、私はこの用語を使用する唯一の人のように見えますが)- ナレーター、対話者、コメンテーター(通常はWの見解)は、そのコメントがほとんどの読者によって一緒にブレンドされたので、完全に全体の解明と治療の推力を打ち破り、これらは何年も前に余白にメモで書かれた他のノートブックからカットされ、貼り付けられた、多くの文章が複数の変種を持つように、言葉を強調して交差させた。彼の文学幹部は、この難消化性の塊を粉々に切り取り、彼らが望むものを残し、宇宙の仕組みに関する全く斬新な見解を伝えていた文章の正しい意味を捉え、その後、この資料を苦渋の遅さで出版した(半世紀後に終わらなかった)以前の物理学はすべて間違いでありナンセンスであり、何百もの本と何万もの論文がそれを議論しているにもかかわらず、事実上誰も彼の仕事を理解していないという多くの声明のために有名なほど悪名高い。多くの物理学者は、彼が非常に抽象的で凝縮された形で述べたニュートン物理学の決定的な合計をした彼の初期の作品だけを知っていたので、何が言われているのかを決めるのは難しい。彼はその後事実上忘れられ、世界の性質と現代物理学の多様なトピックに関するほとんどの本や記事は、彼に渡し、通常は誤った言及しかなく、多くの人が彼を完全に省略した。彼の死後半世紀以上経った今まで、彼が行ったことの記念碑的な結果を本当に把握した人はほんの一握りでした。これはまさにウィトゲンシュタインの状況だと私は主張します。

本書について述べる前に、まず、サール(S)、ウィトゲンシュタイン(W)、ハッカー(H)らの作品に例示されているように、哲学と現代心理学研究との関係についていくつかのコメントを提供します。それは、私がWSフレームワークと呼ぶ心理学の本にはない高次行動の明確な説明を提供するこれらの天才によって、PNC(新世紀の哲学)、TLP、PI、OC、社会世界(MSW)および他の本を作る私のレビューを見るのに役立ちます。人間の行動に関するすべての議論における主要なテーマは、遺伝的にプログラムされたオートマチズムを文化の影響から分離する必要性である。より高次行動のすべての研究は、高速S1と遅いS2思考だけでなく、知覚やその他の自動化対性質だけでなく、S2の文化への拡張(S3)を引き離す努力です。サールの作品全体は、より高次のS2 / S3社会的行動の驚くべき記述を提供し、後のWは、それがS2の意識的な処分提案的思考に進化したS1の真の唯一の無意識の公理に基づいている方法を示しています。

S1は、私たちの不随意、システム1、高速思考、ミラーニューロン、真の唯一の、非命題的な、言語学的前の精神状態の単純な自動化された機能です - 私たちの認識と記憶とシステム1の真実とUA1を含む反射的な行為 - 機関1の理解 - と感情1 - そのような喜び、愛、怒りなど)、システム2、ゆっくりとした思考、ニューロンを精神化。つまり、テスト可能な真偽の、提案的な、Truth2とUA2と感情2(喜び、愛情、憎しみ) - 理由の面でしか記述できない処分(そしてしばしば反事実)を想像し、仮定し、意図し、考え、知り、信じるなど(すなわち、神経系2を神経化学、原子物理学、数学、数学、意味を持たない)

「この意味で多くの言葉は、厳密な意味を持っていません。しかし、これは欠陥ではありません。それは、私の読書灯の光が、鋭い境界を持たないので、まったく本当の光ではない、と言っているようなものだと思うのです。BBB p27

「言語ゲームの起源と原始的な形は反応です。これからだけより複雑な形が開発することができます。言語--私は言いたい--は洗練です。「最初は行いでした。CV p31

「記憶が「痛み」という言葉を保持できなかつた人を想像してみて、彼は常にその名前で異なるものと呼ばれましたが、それにもかかわらず、彼は私たち全員がそうであるようにそれを使用した「痛み」という言葉の通常の症状や前提に合った方法で単語を使用しました。

PI p271

「すべての符号は解釈が可能ですが、意味は解釈が可能であってはならない。「最後の解釈は」 BBB p34

「貯水池からのように、私たちのすべての行為が湧き出る精神状態と呼ばれるものを常に探す(そして見つける)一種の一般的な考え方があります。 BBB p143

「そして、私たちがここと1000の同様のケースで犯す傾向がある間違いは、「私たちがやっているようにルールを使わせる洞察力の行為ではない」という文の中で使用してきたように、「作る」という言葉でラベル付けされています。そして、これは再び原因と理由の間の混乱に結合します。私たちは、私たちがそうであるように、ルールに従う理由が必要ではありません。一連の理由は終わりを持っています。 BBB p143

廃棄語には、少なくとも2つの基本的な使用法があります。一つは、直接的な認識と記憶に起因する真の唯一の文章を指す独特の哲学的使用(しかし、日常の使用に卒業する)、すなわち、私たちの先天的な公理学的S1心理学(私は彼らが私の手であることを知っている)、すなわち、彼らは因果的自己参照(BBB)CSRと呼ばれる反射的または非トランジットである、そして、それは真実または偽りになる可能性があります(「私は家に帰る道を知っている」)、すなわち、彼らは満足の状態(COS)を持っており、CSR(BBBでは推移的と呼ばれる)ではありません。

それは、Wの第3時代の作品と現代心理学の両方に続いて、「意志」、「自己」、そして「意識」は、知覚と反射神経で構成されるS1の公理的な真の唯一の要素であり、彼らの虚偽を示す(意味を与える)可能性(分かりにくい)可能性はない。Wは何度も素晴らしく明確にしたので、彼らは判断の基礎であり、判断することはできません。私たちの心理学の真の唯一の公理は明らかではありません。

インクルーシブフィットネスによる進化は、S2の意識的なゆっくりとした思考(しばしばS3の文化的拡張に変更される)を引き起こすS1の無意識の急速な反射的因果作用をプログラムしており、S1によって身体および/または音声筋肉の活性化をもたらす行動の理由を生み出す。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域における神経調節剤の変化の両方を介してである。全体的な認知錯覚(S'フェノメノロジカル錯覚、ピンカー「ブランクスレート」、トゥービーとコスミデス「標準社会科学モデル」)は、S2/S3が私たちが十分に認識し、制御している理由で意識的に行動を生み出したということですが、現代の生物学と心理学に精通している人は誰でもこの見解は信用できないことがわかります。

文章は、明確なCOS、すなわち、公共の真実の状態を持っているとき、思考を表現する(意味を持つ)。したがって、Wからのコメント:"私が言語で考えるとき、言葉の表現に加えて私の心を通る「意味」はありません:言語自体が思考の乗り物です。そして、私が言葉の有無にかかわらず考えるならば、私が(正直に言う)考えは、他に可能な基準(COS)がないのです。したがって、Wの素敵な格言(p132 Budd)「願いと充実が会おう言語である」と「形而上学的なものすべてと同様に、思考と現実の調和は言語の文法に見られるのです。そして、ここで、Wの「文法」は通常EPとして翻訳することができ、理論化と一般化に対する彼の頻繁な警告にもかかわらず、これは見つけることができるほど高次記述心理学(哲学)の広範な特徴であることがわかります。

Wは意味を構成する精神状態がないことを正しいが、Sは意味の行為を特徴付ける一般的な方法があることを指摘する-"スピーカーの意味.満足の状態に満足の状態を課す"これは、真実または偽りであり得る文脈でCOSを表現する整形式の文章を話すか書くことを意味し、これは精神状態ではなく行為です。

したがって、Wからの有名な引用:「もし神が私たちの心を調べていたら、彼は私たちが誰と話していたか(PI p217)を見ることができなかつたでしょう」と、表現の問題全体が「それは彼です」と「..画像にその解釈を与えるものは、それがあつたパスです」、またはSがそのCOSを言うように、Wの合計(p140 Budd)は、「それが常に最終的に来るものは、それ以上の意味がなければ、彼はそれが起こるべきだという願いを呼び出すということです。私の願いが叶う前に私が望むものを知っているかどうかという疑問は全く起こり得ません。そして、いくつかのイベントが私の願いを止めるという事実は、それがそれを満たすことを意味するものではありません。私の願いが満たされていたら、おそらく私は満足すべきではなかつたでしょう。「私はそれを得る前に私が何を待っているのか知っていますか?」話すことを学んだなら、私は知っている」

ヴィトゲンシュタイン(W)は、私にとって人間の行動に関する最も輝かしい思想家です。彼は、行動が生来の真のみの公理の延長であり(この考えの最終的な拡張治療のための「確実性について」を参照)、意識的な比率が無意識の機械化から生じてくることを示しています。彼のコーパスは、動物の行動のすべての記述のための基礎として見ることができ、心がどのように機能し、実際に働かなければならないかを明らかにすることができます。「必須」は、すべての脳が共通の祖先と共通の遺伝子を共有し、彼らが働く基本的な方法が1つしかなく、必ずしも公理的構造を持ち、すべての高い動物が包括的なフィットネスに基づいて同じ進化した心理学を共有し、人間では他の人を操作するために進化した喉の筋肉収縮(言語)に基づいて人格に拡張されるという事実によって伴われます。私は、Wの仕事と彼の例のほとんどを、速くて遅い思考(例えば、知覚対性質--以下を参照)を引き離す努力として、自然と育成を考える最大の価値を証明することを提案します。

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。すべての新しい発見や発明の前に可能な事に「哲学」という名前を付けるかもしれません。PI 126

「実際の言語を狭く調べるほど、より鋭い言語と要件との間の矛盾が発生します。(論理の結晶性の純度については、もちろん、調査の結果ではなく、要件でした。PI 107

「この説得で私が反対したい間違った概念は、私たちが全く新しいことを発見することができるという次の概念です。それは間違いです。問題の真実は、我々はすでにすべてを持っているということです、そして、我々はそれを実際に提示しているということです。私たちが普通の言語の文法の領域で私たちの動きを行い、この文法はすでにそこにあります。ですから、我々はすでにすべてを持っており、将来を待つ必要はありません。(1930年に述べた)ワイスマン「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとウィーン・サークル(1979) p183

「ここでは、哲学的調査において顕著で特徴的な現象に立ち向かう:難易度---私は言うかもしれない---解決策を見つけるのではなく、解決策として認識することではなく、それが予備的なものであるかのように見えるものです。私たちがすでにすべてを言いました。---これから続くものは何もない、これ自体が解決策ではない!これは、私たちが間違っていて説明を期待しているのに対し、難易度の解決策は、私たちの考慮事項の正しい場所を与えるならば、説明であると信じています。私たちがそれに住んでいて、それを超えようとしなさい。ゼッテル p312-314

「私たちの方法は純粋に説明的であり、私たちが与える説明は説明のヒントではありません。BBB p125

「私たちが目指している明確さは、本当に完全な明快さです。しかし、これは単に哲学的な問題が完全に消えるべきであることを意味します。PI p133

Wはまた、進化的認知言語学のパイオニアと見なすことができます - 文脈における言語使用の例を慎重に分析し、多くの種類の言語ゲームと真の唯一の無意識のプライマリゲーム間の関係を暴露することにより、心とその進化のトップダウン分析、知覚、記憶、反射的な感情と行為(しばしば皮質下および原始的な皮質爬虫類脳第一自己機能として記述される)の公理的な速い思考、そして後に進化した、知っている、考える、私たちの第二の自己人格の基礎を構成する認知錯覚のネットワークを含むゆっくりとした思考の真偽命二次言語ゲームを構成するより高い皮質の性質意識能力。彼は、システム1(S1)の真の唯一の認識、記憶、反射的な行動が、システム2(S2)の性質の思考、記憶、理解にどのように等しいかを示す何百もの言語ゲームを解剖し、彼の例の多くも自然/育成の問題に明示的に対処します。この進化的な視点で、彼の後の作品は、完全に現在であり、一度も等しくなったことがない人間性の息をのむような啓示です。多くの視点にはヒューリスティックな価値がありますが、この進化的な2つのシステムビューが最適であることがわかります。ドブジャンスキーの有名なコメントを言い換えると、「進化心理学の観点を除いて哲学の意味をなすものは何もない」。

一般的な考え方(例えば、ピンカーの本の1つのサブタイトル「思考のもの:人間の本質への窓としての言語」)は、言語が私たちの思考や(Fodor)の何らかの翻訳の窓であり、それが翻訳である他の「思考言語」があるに違いはありません。何百もの言語の繰り返し分析を行い、その言語は私たちが考えることができる最高の絵ではなく、心と人間性ではなく、スピーチが心であり、彼のコーパス全体がこのアイデアの発展とみなすことができることを示そうとしたWによって拒否されました。彼は、生理学、実験心理学と計算(心の計算理論、強いAI、動的システム理論、機能主義など)のボトムアップアプローチは、言語ゲーム(LG)の分析が何をしたかを明らかにすることができるという考えを拒絶した。彼が指摘した困難は、常に私たちの目の前にあるものを理解し、曖昧さを捉えることです(「これらの調査の最大の難しさは、曖昧さを表す方法を見つけることです」 LWPP1、347)。

彼は、「何も隠されていない」、すなわち、私たちの心理学全体とすべての哲学的な質問に対するすべての答えは

、私たちの言語(私たちの人生)にあり、難しいのは答えを見つけることではなく、いつものように私たちの目の前でそれらを認識することであることを認識しました。LWPP1, 459)。

ちなみに、論理や文法の方程式と私たちの公理心理学は、Wと人間性を理解するために不可欠です(DMSとして、しかし私が知る限り、他の誰も指摘していません)。

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サール PNC p115-117

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の状態と関係があります。そして、命題は世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の状態を決定し、提案は満足の状態を決定するのに十分なものとして定義されているので、すべての意図的性は命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

「意図的な状態は、満足の状態を表しています。人々は誤って、すべての精神的表現は意識的に考えなければならないと考えています。しかし、私が使用している表現の概念は機能的であり、トポロジ的な概念ではありません。満足の状態を持つものは、意図的性の特徴である方法で成功または失敗する可能性があり、定義上、その満足の状態の表現です。社会現象の意図の構造を、満足の状態を分析することで分析することができます」サールMSW p28-32

「迷信は因果関係への信念にすぎない」 TLP 5.1361

「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。BBB p6

「科学的な疑問がみな答えられても、人生の問題は完全に手つかずのままだと感じています。もちろん、質問は残っておらず、これが答えです。TLP 6.52

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、仮定をしているからです。ここでの説明に頭が悩まされているのなら、最も重要な事実を思い出すことを怠っているのです。Z 220

私たちの共有された公共の経験は、私たちの公理EPの真の唯一の延長となり、私たちの正気を脅かすことなく間違っていないことにはできません。つまり、S1の「間違い」の結果は、S2の間違いとは全く異なります。DMSによってうまく説明され、サールによって彼自身のユニークな方法で解明されたカロリーは、「現実」は不本意な公理の結果であり、テスト不可能な真または偽の命題ではないので、世界と他の心(そしてブランクスレートを含む他のナンセンスの山)の懐疑的な見解は本当に足場を得ることができないということです。

不本意な速い思考の調査は、心理学、経済学(例えば、カーネマンのノーベル賞)および「認知錯覚」、「プライミング」、「フレーミング」、「ヒューリスティック」、「バイアス」などの名前の他の分野に革命をもたらしています。もちろん、これらの言葉も言語ゲームなので、これらの単語を使用する方法はますます有用ではなく、研究や議論は「純粋な」システム1から1と2の組み合わせ(Wが明らかにした標準)まで異なりますが、システム2の思考や意図的な行動は、システム2の思考や意図的な行動だけでは起こり得ないので、おそらく遅いシステム2の処分思考だけでは起こりません。「推論エンジン」「脳内反射神経」「オートマチズム」「認知公理」「背景」または「岩盤」(W以降のサールがEPと呼ぶ)。Wの繰り返しのテーマの一つはTOM、または私が好むようにUA(代理店の理解)でした。実験でUA1とUA2を慎重に分析しているイアン・アパリーは、最近、UA1をファンタジーとして特徴づけているハット(UA1に関与する「理論」や表現なし、つまりUA2のために予約されている)を知っています。しかし、他の心理学者と同様に、ApperlyはWがこの80年前の基礎を築いたという考えを持っていません。認知錯覚、オートマチズム、高次思考に関する急成長する文献の中核は、Wと互換性があり、簡単に推測できるというのは、簡単に防御可能な見解です。上記のほとんどは何十年も(そしてWの教えの一部の場合には世紀の3/4でさえ)多くの人に知られているにもかかわらず、私は行動科学のテキストで十分な議論に近づいているものを見たことがなく、一般的にはほとんど言及されていません。

合理性の論理的構造(高次思考の記述心理学)に関する合理的なスタートを切ったので、私がここ数年で構築したこの作品から生じる意図的性の表を見ることができます。これは、今度はヴィトゲンシュタインに多くを負っているサールからはるかに簡単なものに基づいています。私はまた、過去9行に証明されている思考プロセスの心理学で現在の研究者によって使用されている変更されたフォームテーブルに組み込まれています。ピーター・ハッカーの人間

性に関する最近の3巻のものと比較することは興味深いはずですが。この表は、S1 と S2 の間の多くの (おそらくすべて) 経路が双方向である多数の (おそらくすべて) 経路を持つ、最終的な分析や完全な分析ではなく、私が見た他のどのフレームワークよりも完全で有用な動作を記述するためのヒューリスティックとして提供します。また、S1とS2の間の非常に区別、認知と意欲、知覚と記憶、感情、知ること、信じる、期待するなど、任意です-つまり、Wが示したように、すべての単語は文脈的に敏感であり、ほとんどがいくつかの全く異なる用途(意味またはCOS)を持っています。多くの複雑なチャートは科学者によって公開されていますが、私は行動について考えるとき(脳機能について考えるのではなく)最小限の有用性を見つけます。説明の各レベルは、特定のコンテキストで有用であるかもしれませんが、私は粗いまたは細かいことが有用性を制限していることがわかります。

合理性の論理的構造(LSR)、または心の論理的構造(LSM)、行動論理構造(LSB)、思考の論理的構造(LST)、意識の論理的構造(LSC)、人格の論理構造(LSP)、意識の記述心理学(DSC)、高次思考の記述心理学(DPHOT)、古典哲学用語。

システム1は不本意で、反射的または自動化された「ルール」 R1であり、思考(認知)はギャップがなく、自発的または審議的な「ルール」 R2であり、意欲(Volition)は3つのギャップを有する(サール参照)。

私は、サールの「満足の条件に満足の条件を押し付ける」を「筋肉を動かすことによって精神状態を世界に関連付ける」に変更することで、行動をより明確に記述できることを示唆しています。話し、書き込み、そして彼の「フィットの世界の方向への心」と「世界からフィットする方向を気にする」による「原因は心の中に由来する」と「原因は世界に由来する」 S1は、S2がコンテンツを持ち、下向きに因果関係(世界への心)を持っている間、上向きの因果関係(世界から生じる)と満足のいかない(表現や情報を欠いている)だけです。 **行動をより明確に説明する** 私はこの表の用語を採用しました。

意思決定研究から

| | 好きになる傾向がある* | 感情 | メモリ | 知覚 | 欲望 | PI** | IA*** | アクション / 語 |
|----------------------------|-------------|-----------|-----|----|-----------|------|-------|-----------|
| サブリミナル効果 | ない | はい/ ない | はい | はい | ない | ない | ない | はい/ ない |
| 連想 (A) ルールベース (RB) | RB | A/RB | A | A | A/RB | RB | RB | RB |
| 状況依存 (CD) 抽象化 (A) | A | CD/A | CD | CD | CD/A | A | CD/A | CD/A |
| シリアル (S) 平行 (P) | S | S/P | P | P | S/P | S | S | S |
| ヒューリスティック (H) 分析 (A) | A | H/A | H | H | H/A | A | A | A |
| アクティブが必要 記憶 | はい | ない | ない | ない | ない | はい | はい | はい |
| 一般的なインテリジェンス 依存 | はい | ない | ない | ない | はい/ ない | はい | はい | はい |
| 認知的ローディング 抑制 | はい | はい/ ない | ない | ない | はい | はい | はい | はい |
| 覚醒は 促進 (F) または抑制 (I) | I | F/I | F | F | I | I | I | I |

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

*設定、機能、設定、表現、可能なアクションなど

** Searleの以前の意図

*** Searleの意図の実行

**** Searleのフィット方向

*****サールの因果関係

***** (精神状態がインスタンス化されます-それ自体を引き起こしたり実行したりします)。サールはこれを因果的に自己参照と呼んでいた。

***** Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichによって定義された認知システム。

*****異なる場所、異なる時間 (TT) 現在の時刻と場所 (HN)

特定の文脈で言語の可能な用途(意味、真実作成者、満足条件)を記述した後、私たちはその関心を使い果たし、説明(哲学)の試みは真実から遠ざかるというヴィトゲンシュタインの発見を常に念頭に置くべきです。このテーブルは、非常に単純化されたコンテキストフリーのヒューリスティックであり、単語の各使用は、そのコンテキストで調べる必要があることに注意することが重要です。文脈変動の最良の検討は、ピーターハッカーの人間の性質上の最近の3巻で、この1つと比較されるべき多数のテーブルとチャートを提供しています。ウィトゲンシュタイン、サール、および現代の2つのシステムビューからの行動の分析の包括的な最新の説明を望む人bookは、私の本ウィトゲンシュタインとサール2nd edで明らかにされた哲学、心理学、心と言語の論理的構造 2nd edを相談することができます (2019)。).

脳の一部が意識に存在するTABLEシステム1(すなわち、感情、記憶、知覚、反射神経)の説明は、自動化され、一般的に500msec未満で起こっているが、システム2は500msec以上を必要とする意識(S2D-my用語)で表されるゆっくりとし

た審議行動を行う能力であるが、頻繁に繰り返されるS2アクションも自動化(SA-my-s2-s2-用語集)になる可能性がある。昏睡状態から睡眠の段階から完全な意識への意識のグラデーションがあります。メモリには、システム2の短期記憶(ワーキングメモリ)とシステム1の長期記憶が含まれます。ポリシヨンの場合、通常はTやFではなく、成功しているかそうではないと言います。

もちろん、様々な行と列は論理的、心理的に接続されています。例えば、真または偽の行の感情、記憶、知覚は真実であり、精神状態を記述し、認知システム1に属し、一般的に自発的に開始されず、因果関係なく自己反射的であり、世界で起こり、心の変化を引き起こし、正確な持続時間を有し、強度の変化を引き起こし、正確な持続時間を有し、強度の変化を引き起こし、ここで起こり、ここで起こり、一般的に特別な品質を持ち、言語を必要とせず、一般的な知性とワーキングメモリから独立している、認知負荷によって阻害されない、自発的な内容を持たない、

言葉は脳の実際の複雑な機能(行動)と正確に一致することができない、つまり文脈の組み合わせ爆発(文章と世界)があり、したがって、すべての可能な文脈を述べなければならない法律のシステムに高次行動を減らすことができない理由は、常にあいまいさがあります。

約100万年前、霊長類は喉の筋肉を使って複雑な一連の騒音(すなわち原始的なスピーチ)を作り、現在の出来事(知覚、記憶、反射的行動、一部のプライマリまたはプリミティブ言語ゲーム(PLG)を記述する能力を進化させました。システム1は、高速、自動化された、皮下、非表現、因果的自己参照、自動参照、非自動、正確な時間と場所を持つ非情報なし、真の唯一の精神状態で構成され、時間の経過とともに、空間と時間(条件付き、仮説または架空の)の変位を記述するさらなる能力を持つ高皮質S2で進化しました(過去および未来およびしばしば反事実、システム2の二次言語ゲームまたは洗練された言語ゲーム(SLG)は、遅く、皮質的で、意識的で、推移的な情報を含む(満足度サールの真実主義者の任期を持つ、または私がプライベートS1とパブリックS2のためにCOS1とCOS2に分ける意味)、表現-私は再びS1表現のためのR1とS2のためのR1に分ける、すべてのS2機能は、正確な時間と能力と精神状態ではないを持つ。好みは直感、傾向、自動腫瘍学的ルール、行動、能力、認知モジュール、性格特性、テンプレート、推論エンジン、傾斜、感情、提案態度、鑑定、能力、仮説です。感情の中には、S2の性質(W RPP2 148)の結果が徐々に発展し、変化しているものもありますが、他の感情は一般的なS1であり、高速で自動で表示され、消えます。「私は信じています」「彼は愛している」「彼らは考える」は、通常、時空に置かれている可能性のある公共の行為の記述です。私自身についての私の一人称声明は真の唯一の(嘘を除く)S1であり、他の人に関する第三者の声明は真実または虚偽である-すなわち、S2(ジョンストン・ウィットゲンシュタイン:内面をインクするレセ』とバッド・ウィットゲンシュタインの心理学哲学の私のレビューを参照してください)。

知覚、反射的行動、記憶に反する意図的な状態のクラスとしての「好み」は、1930年代にウィットゲンシュタイン(W)によって最初に明確に記述され、「傾向」または「性質」と呼ばれていました。ラッセル・ブ・ウットはsinc、Wやサール(例えば、意識と言語p118)によって示されているように、しばしば命題でも態度でもない、と誤解を招くフレーズであり、意図し、知り、記憶するので、彼らは一般的に「命題的態度」と呼ばれています。これらは、本質的なオブザーバー独立した公開表現です(プレゼンティオnsまたはシステム1からシステム2への表現とは対照的に - Searle-C+L p53)。彼らは時間や空間に置き換えられる潜在的な行為であり、進化的により原始的なS1の知覚記憶と反射的な行動は常に今ここにあります。これは、システム2を特徴づける一つの方法です - システム1の後に脊椎動物心理学の第二の大きな進歩 - イベントを表現し、別の場所や時間に発生していると考えられる能力(Searleの認知と意志を補完する反事実想像力の第3の学部)。S1の「思考」は、S1 --Searleの潜在的または無意識の精神状態である - フィル問題 1:45-66(1991)。

知覚、記憶および反射的な(自動)行動はS1またはプライマリLG(例えば、私は犬を見る)として書き込まれることができ、通常の場合、彼らは真だけであり得るようにNOテストが可能です。

処分は二次LG(SLGの-例えば、私は犬を見ると信じています)として取り付けることができ、私自身の場合でも行動する必要があります(つまり、私が行動するか、何らかの出来事が起こるまで私が信じていることをどのように知っていますか?また、話されたり書かれたりすると行動が起き、これらのアイデアはすべてウィットゲンシュタイン(1930年代半ば)によるものであり、行動主義(ヒンティッカ&ヒンティッカ1981年、サール、ハッカー、ハットなど)であることに注意してください。

ウィットゲンシュタインは進化心理学の創始者と見なされ、彼の作品は、私たちの公理的システム1心理学の機能とシステム2との相互作用のユニークな調査とみなすことができます。ウィットゲンシュタインは、30年代初頭に青と茶色の本の中で高次思考の記述心理学の基礎を築いた後、彼の古典的な本の中でこのテーブルのシンプルなバージョンを作ったジョン・サールによって拡張されました(2001)。これは、1911年の彼の最初のコメントから開発され、彼の

最後の作品「確実性(OC) (1950-51年に書かれた)で美しくレイアウトされた進化心理学の公理的構造のWの調査に拡大します。OCは、行動や認識論、オントロジー(おそらく同じ)、認知言語学、または高次思考の基礎石であり、私の見解では、哲学(記述心理学)、したがって行動の研究において最も重要な単一の研究です。知覚、記憶、反射作用、感情は原始的な部分的に皮質下の不随意精神状態であり、心が自動的に世界に適合するPLG(因果的自己参照--サークルである)で記述することができる-- 制御が不可能な合理性の疑いのない、真の唯一の公理的基礎)。好み、欲望、意図とは、心が世界に合わせようとするSLGの「自主的能力」で記述できる、ゆっくりと考える意識的な自主的能力の記述です。行動主義と私たちのデフォルトの記述心理学(哲学)の他のすべての混乱は、S1が機能しているのを見ることができず、すべての行動をSLG(現象学的錯覚-- TPI - サール)と表現することができないために生じます。Wはこれを理解し、彼の作品を通して行動する言語(心)の何百もの例で比類のない明確さでそれを説明しました。理由は記憶にアクセスするので、私たちは意識的に明らかに見えるが、しばしば間違った理由を使って行動を説明します(二人の自己またはシステムまたは現在の研究のプロセス)。信念やその他の性質は、世界の事実(心とフィットの世界の方向)に一致させようとする思考として記述することができますが、**意志** は行動する意図(事前意図- PI、またはアクションIA-Searleの意図)に加えて、世界を思考に合わせようとする行為です。

時には、信念やその他の処分に到達する推論にギャップがあります。処分の言葉は、精神状態(「私の考えは..」)を記述しているように見える名詞として、または能力(彼らが行動するか、または行動するかもしれないエージェント-'私はそう思う..)を記述するための動詞や形容詞として使用することができます、しばしば誤って「命現的態度」と呼ばれます。認識は記憶となり、私たちの先天的なプログラム(認知モジュール、テンプレート、S1の推論エンジン)は、これらを使用して処分を生み出します-(信じる、知っている、理解する、考えるなど)、実際または潜在的なPUBLIC ACTS(言語、思考、心)とも呼ばれ、傾斜、好み、能力、S2の表現)とVolition - と私有の精神状態の言語(概念、思考)はありません、思考や心)。高等動物は考え、行動し、その程度まで彼らは公共の心理学を持っています。

知覚 : (「X」は真実です): 聞く, 参照, 匂い, 痛み, タッチ, 温度
思い出: 思い出して、夢を見る?

P参照、傾斜、DのIS位置(XがTrueになる可能性があります)。

クラス1: **命題** (真または偽)を信じる公の行為、判断、思考、表現、理解、選択、決定、優先、解釈、知り合い(スキルと能力を含む)、出席(学習)、経験、意味、記憶、私は、考慮し、望み、期待し、望む、望む、望む (、特別なクラスを望む、(側面として)見る、

クラス2: デカリングモード(まるで、条件付き、仮定、架空のもの)- 夢を見て、想像し、嘘をつく、予測する、疑う

クラス3: 感情: 愛する、憎む、恐れる、悲しみ、喜び、嫉妬、うつ病。彼らの機能は、迅速な行動のための知覚と記憶の情報処理を容易にすることによって、包括的なフィットネス(期待最大ユーティリティ)を増加させるために好みを調節することです。怒りや恐怖などのS1感情と、愛、憎しみ、嫌悪感、怒りなどのS2の間には、いくつかの分離があります。

欲望: (私は"X"を真実にしたい- 私は私の考えに合わせて世界を長くしたい): 憧れ, 期待し, 待っている, 待っている, 必要とし, 必要とし, 意図を行う義務がある: (私は"X"を真にする)意図

アクション(私は"X"真を作っています): 演技、話す、読む、書く、計算、説得、ショー、実証、説得力のある、試みている、試み、笑う、演奏、食べる、飲酒、泣く、断定(記述、教育、予測、報告)、有望な、作るか、地図を作るか、または使用、書籍、図面、コンピュータプログラム- これらは公共および自発的であり、他の人に情報を転送します。

言葉は、私たちの生活の中で様々な機能を持つ潜在的な行動を表現し、オブジェクトの名前や単一のタイプのイベントではありません。

人間の社会的相互作用は、社会心理学のクリプトやスキーマ(推論エンジンに編成されたニューロンのグループ)とほぼ同等の認知モジュールによって支配され、知覚と記憶を持つ、意図と行動につながる好みの形成につながります。意図的または意図的な心理学は、これらすべてのプロセスまたは行動につながる唯一の好みであると取ることができ、より広い意味では、神経生理学、神経化学および神経遺伝学を含む場合の認知心理学または認知神経科学の対象である。進化心理学は、先行する全ての機能の研究、または行動を生み出すモジュールの動作の研究とみなされ、その後、進化、開発、および好み、意図、行動を伴う個々の行動において共に広がっています。私たちの心理学の公理(アルゴリズムまたは認知モジュール)は私たちの遺伝子にあるので、生物学、心理学、哲学(記述心理学)、数学、論理、物理学、コンピュータプログラムを介してそれらがどのように機能するかを明確に説明し、それら

を拡張することによって理解を広げることができ、より速く、より効率的になります。Hajek(2003)は、ロット(1999)、Spohnなどによってアルゴリズム化された条件付き確率として、性質の分析を与えます。

意図的性(認知または進化心理学)は、意識を生み出し、必要とする認知モジュールに生まれつきプログラムされた行動の様々な側面で構成され、知覚と一部の記憶を除いて、ほとんど全ての人間の成人と意志と自己と、正常な人間の成人では、純粋です。公共の行為(例えば、言語)を必要とし、私たちの包括的なフィットネス(最大の期待されるユーティリティ - ベイズユーティリティの最大化が非常に疑わしい)を支配し、相互利他主義(私はDirA1とDIRA2 S1とS2のためにDIRA2に分割するアクションサークルの欲望独立理由)を介して、私たちの包括的なフィットネス(最大の期待されるユーティリティ - ベイズ同時使用の最大化は非常に疑わしい)を増やすために関係に私たちをコミットし、満足度の条件に満足の条件を課す 公共の行為(筋肉の動き、すなわち、数学、数学、) 言語、芸術、音楽、性別、スポーツなど)。この基本は、1930年代から1951年までの私たちの最大の自然心理学者ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインによって理解されましたが、1911年にまでさかのぼり、多くの人が洗練していましたが、とりわけ1960年代に始まったジョン・サールによって考え出されました。「心理現象の一般的な本。正確さではなく、全体の視点で努力しています」 RPP Vol 1 p895 cf Z p464.意図的性(つまり、私たちの言語ゲームの)の多くは、学位を認めています。Wが指摘したように、傾斜は時には意識的で審議的である。すべてのテンプレート(関数、概念、言語ゲーム)は、有用でなければならないので、いくつかの文脈であいまいなエッジを持っています。少なくとも2つのタイプの思考(すなわち、2つの言語ゲームまたは性質動詞「思考」を使用する方法)があります-部分的な意識(W)を意識し、合理的にすることなく非合理的であり、現在はS1とS2の速く、遅い思考として記述されています。これらは単なる現象ではなく言語ゲームと見なすのに便利です(W RPP Vol2 p129)。精神現象(私たちの主観的または内部の「経験」)はエピソード的であり、基準が不足しているため、自分自身にとっても情報が不足しているため、コミュニケーション、思考、心の役割を果たしません。すべての性質(傾斜、提案的態度)のように考えることは、任意のテストを欠いている、精神状態(S1の認識とは異なり)ではなく、それがスピーチ、書き込みまたは他の筋肉の収縮で公共の行為になるまで情報を含みません。私たちの認識と記憶は、公共の行動に現れたときにのみ情報(意味-すなわち、公共のCOS)を持つことができますの**意味 (結果)**。

(メモリと知覚は、モジュールによって、行動されたときに心理的に効果的になる性質に統合されています)。言語を発展させることは、単語sを行為に置き換える生来の能力を明らかにすることを意味します。TOM(心の理論)は、S1とS2のそのような機能に対する私の用語とUA1とUA2のUA理解と呼ばれる方がはるかに優S1およびS2のそのような機能 れています-また、進化心理学または意図的性と呼ぶことができます-意識、自己、思考の先天的にプログラムされた自然な遺伝的生産、自己、そして筋肉を収縮させることによって行動につながります。したがって、「提案的態度」は、通常直感的な合理的なS2Dまたは非合理的な自動S2A音声および行動のための混乱した用語である。神経生理学を研究することによって思考、感情などを理解するための認知科学の努力はMIND、「心」(思考、言語)がすでに完全なパブリックビュー(W)にあるため、私たちがすでに知っているよりもMIND(思考、言語)の仕組みについて何も教えてくれないことがわかります。神経生理学、生化学、遺伝学、量子力学、弦理論など、あらゆる現象は、物理学と化学の法則に従う(記述できる)原子で表が構成されているのと同じくらい、私たちの社会生活とは無関係です。Wが有名に言ったように「何も隠されていない」。心に関する関心(思考、言語)に関する関心のすべては、我々は言語の働きだけを注意深く調べる場合は、見て開いています。言語(心、潜在的な行動に結び付いた公共のスピーチ)は、社会的相互作用を促進し、資源、生存、再生の収集を促進するために進化しました。文法(進化心理学、意図的性)は自動的に機能し、分析を行うと非常に混乱します。単語と文は、文脈に応じて複数の用途があります。私は信じて、私は食べると私は信じているように深く異なる役割を持っていると信じているか、私は信じているし、彼は信じています。現在の時制の一人称表現的な表現力を持つ動詞「私は信じる」など、私の可能性のある行為を予測する能力を記述し、私の精神状態を記述したり、それらの言葉の通常の意味での知識や情報に基づいていません(W)。それは真実を記述するのではなく、それを言う行為に真実を作る - すなわち、「私はそれが雨だと信じています」はそれ自体を真実にします。つまり、一人称現時時に使用される性質動詞は、自己参照的であるが、自分自身をインスタンス化するが、可能な状態の記述としてはテスト可能ではない(すなわち、TやFではない)。しかし、過去または将来の時制または第三者の使用 - 「私は信じていた」または「彼は信じている」または「彼は信じている」彼らは検証可能になったり、検証可能になる公共の行為を記述するとおり、真実または虚偽の情報が含まれている。同様に、「雨が降っていると思う」は、私にとっても、その後の行動以外に情報はありますが、「雨が降ると信じています」または「彼は雨が降っていると思うでしょう」は、情報(または誤った情報)を伝えようとする時空に置き換えられる潜在的に検証可能な公共の行為です。

事前意図なしで話される非反射または非合理的な(自動)単語(私はS2Aと呼ぶ-すなわち、練習によって自動化されたS2D)は、W&その後、ダニエル・モヤール・シャロックkによって2000年の哲学心理学の論文で行為としての言葉と呼ばれています) 多くのいわゆる傾斜/性質/好み/傾向/能力/能力/能力/Abの明度は非命題(非-反射)態度(彼らの機能や能力と呼ぶのがはるかに有用)事前の意図はSearleによってメンタルステートであり、したがってS1であると述べられ

ているが、私たちの通常の言語では、私たちの以前の意図はS2の意識的な審議であるので、再び私はPI1とPI2を分離しなければならないと思う。知覚、記憶、タイプ2の性質(例えば、いくつかの感情)および多くのタイプ1の性質は、より良いS1の反射神経と呼ばれ、私たちの進化的心理学(ウィトゲンシュタイン後のモヤール・シャーロック)のヒンジ(公理、アルゴリズム)のヒンジ(公理、アルゴリズム)の自動、非反射、非提案的および非アティチュナラル機能である心理学後 Moyal-Sharrock。

さて、ホーウィッチの「ウィトゲンシュタインのメタフィソフィズ」に関するいくつかのコメントのために。上記と、W、S、Hアッカー、DMSなどによる本の私の多くのレビューの後、それはWが何をしているのか、そして行動の現代的なアカウントが含まれるべきかを明確にする必要がありますので、私はいくつかのコメントをします。

まず、単語の前に「meta」を置くことは疑わしいはずで、Wは、例えば、メタ数学は他の数学と同様に、言った。哲学の外に出ることができるという考え(すなわち、高次思考の記述心理学)は、それ自体が深い混乱です。ここでのもう一つのいらだちは、「彼女」と「彼女」と「彼女」や「彼女/彼女」などの絶え間ない逆言語的性差別です。大きな欠点は、私の仕事を除いてほぼ普遍的私が上記で概説したHOTとサールのフレームワークの非常に強力な直感的な2つのシステムビューとして私が見ているものを採用する(私の仕事を除いてほぼ普遍的ですが)完全な失敗です。これは、自動化された真のS1、提案的な処分S2、COSなどの枠組みなしで非常に泥だらけの水の中を泳ぐ意味p111 et seq.(脚注2-7のespecially)に関する章では特に痛烈です。ジョンストンやバッド(私のレビューを参照)などを読むことで、内側と外側のより良いビューを得ることもできます。しかし、ホーウィッチは多くの切迫したコメントをします。特に、p65に対するWの反理論的スタンスの輸入の要約が気に入った。

「フレーズの論理への算術の削減のように、言語的/概念的な活動(PI 126)を説明する試みがあってはならない。それを認識論的基盤(PI 124)に与える試みはありません。意味論理のように理想化された形式(PI 130)を特徴付けようとする試みはありません。マッキーの誤り理論やダメットの直感のように、それを改革する試み(PI 124、132)はありません。クインの存在のアカウントのようにそれを合理化する試みはありません(PI 133)。嘘つきのパラドックスに対するタルスキーの反応のように、それをより一貫させる試み(PI 132)を作る試みはありません。奇妙な仮説的な「テレポーテーション」シナリオのための個人的なアイデンティティの質問の解決のように、それをより完全に(PI 133)にしようとする試みはありません。

私にとって、Wに関するすべての書き込みの高いポイントは、ほぼ常にマスター自身からの引用であり、これはここでも真実です。TLPからの彼の引用(p101)は、彼が後に呼び出したEPのWの初期の把握を示しています「背景」または「岩盤」。

「思考はハローに囲まれています。その本質、論理は、秩序、実際には世界の先験的な秩序を提示する:それは可能性の秩序であり、それは世界と思考の両方に共通でなければならない。しかし、この順序は、完全に単純でなければならないようです。それはすべての経験の前に、すべての経験を実行する必要があります。経験的な曇りや不確実性がそれに影響を与えることはできません。それはむしろ最も純粋な結晶でなければなりません。しかし、この結晶は抽象化としては現れません。しかし、具体的なものとして、確かに、最も具体的なものとして、それはあったように、最も難しいことです。(TLP #5、5563、PI 97)。

クリプケの章には多くの良い点がありますが、混乱もいくつかあります。p165-6でのWの私用言語の反論についての議論は、p 196-7で少し不明確なbutのように思えますが、この概念はWだけでなくHOTのすべての理解の中心です。スターンは、おそらく私が彼の「ウィトゲンシュタインの哲学的調査」で見たそれについての最高の議論を持っています。クリプケは、彼が作ったすべての騒音にもかかわらず、一般的に古典的な懐疑的な形而上学的失態を繰り返すだけで、Wを完全に誤解していると理解されています。

「クリプケンシュタイン」や哲学を一般的に掘り下げたい人は、ほとんどの学術書や論文がlibgen.io、b-ok.org、philpapers.org、academia.edu、arxiv.org、researchgate.netでネット上で自由に利用できるようになった懐疑論の見事な解体であるReadとSharrockの「クリプケのコンジュリグトリック」を読むべきです。、

私は意識に関する章は非常に良い、特にp190 etを見つける。私用言語、クオリア、反転スペクトル、Wが行動主義者であるという考えの反論に関するseq.

彼の最後の発言を繰り返す価値がある。「これはどのような進歩であり、魅力的な謎は取り除かれましたが、慰めに深いものは取り除かれっていません。何も説明されたり、発見されたり、再考されたりしていません。いかに飼

い慣らされ、感動的でない人が考えるかもしれません。しかし、おそらく、ヴィトゲンシュタインが示唆するように、明快さ、神秘的、真実の美德は十分に満足しているはずで

ホーウィッチは一流であり、彼の仕事は努力の価値があります。彼(そして誰もが)サールといくつかの現代心理学だけでなく、ハット、リード、ハッチンソン、スターン、モヤアル・シャーロック、ストロール、ハッカー、ベイカーなどを研究し、幅広い現代的な行動観を達成することを望んでいます。彼らの論文のほとんどはacademia.eduにあります。PMSハッカーにとっては<http://info.sjc.ox.ac.uk/scr/hacker/DownloadPapers.html>参照してください。

最後に、私がここで奨励した視点で、Wは現代哲学と心理学の中心にあり、あいまいで困難で無関係ではありませんが、シンチレーション、深遠、クリスタルクリアであり、彼を逃すのは可能な限り最大の知的冒険の1つを逃すということです。